

鉱物・食糧資源に影響及ぼす原油安

(株)資源食糧問題研究所

代表 柴田明夫

コモディティ(国際市況商品)市場では、2004年から2013年にかけての約10年にわたり、原油を始め、鉄鉱石、石炭、非鉄、穀物などの資源価格を押し上げてきた「スーパーサイクル」が終焉した。中国の経済減速に伴い、世界的な資源の供給過剰が顕在化してきたことが直接の原因と言えよう。これを加速させたのが、昨年秋口より起こった原油価格の急落である。本稿では、最近の「長期停滞」や「資本主義の限界」論をも踏まえて、原油安は鉱物資源、食糧資源にどのような影響を及ぼすのかを探ってみたい。

下落基調にあった資源・食糧価格

ニューヨーク WTI(原油価格の国際指標となるテキサス・ニューメキシコ州産の原油)原油価格は昨年10月以降急落し、15年は1バレル50ドルを割り込んだスタートとなった。およそ5年半ぶりの安値である。この原油急落は世界の資源・食糧市場にどのような影響を及ぼすのだろうか。

まず、最近の資源・食糧価格がどのような動きをしているのかを見る。表1は、原油価格および天然ガス、石炭、金、非鉄、鉄鉱石、小麦、トウモロコシ、大豆の平均価格を11年、14年6月、15年5月時点で比較したものである。これより以下の点を確認できる。

①足元の資源・食糧価格は、11年比、14年6

月比いずれも下落している

- ②ただ、天然ガス、原油、大豆は昨年6月までは前年比上昇しており、下落に転じたのは昨年後半以降であること
- ③一方、昨年6月時点ですでに11年比20%以上下落しているものは、鉄鉱石(▲44.8%)、石炭(▲41.1%)、トウモロコシ(▲30.6%)、アルミ地金(▲23.4%)、銅地金(▲22.7%)
- ④特に、昨年6月から20%以上下落しているのは、原油(▲54.6%)、天然ガス(▲39.1%)、鉄鉱石(▲38.6%)、大豆(▲31.9%)、小麦(▲24.7%)であるが、
- ⑤11年時点から下落率が拡大しているものは、鉄鉱石(▲66.1%)、石炭(▲50.1%)、原油(▲49.7%)、トウモロコシ(▲40.3%)、銅地金(▲32.7%)、天然ガス(▲30.0%)、金(▲25.3%)

要するに、資源・食糧市場では、鉄鉱石、石炭、トウモロコシ、アルミ地金、銅地金価格が、原油価格の下落に先んじて11年以降下落基調を強めていたことが分かる。

(表1) 原油安とその他資源・食糧価格の変化

	2011年	①2014年 6月	②2015年 5月	②/① 比率%	① 2011年 比	② 2011年 比
WTI原油(\$/bbl)	95.0	105.2	47.8	-54.6	10.7	-49.7
米国天然ガス(\$/mmbtu)	4.0	4.6	2.8	-39.1	15.0	-30.0
石炭(\$/MT)	130.1	76.6	64.9	-15.3	-41.1	-50.1
金(\$/troy ounce)	1,571.7	1,279.1	1,174.5	-8.2	-18.6	-25.3
銅地金(\$/MT)	8,823.5	6,821.1	5,939.7	-12.9	-22.7	-32.7
アルミ地金(\$/MT)	2,400.7	1,839.0	1,773.9	-3.5	-23.4	-26.1
鉄鉱石(\$/MT)	167.8	92.7	56.9	-38.6	-44.8	-66.1
小麦(\$/MT)	316.2	306.5	230.8	-24.7	-3.1	-27.0
トウモロコシ(\$/MT)	291.8	202.6	174.2	-14.0	-30.6	-40.3
大豆(\$/MT)	484.2	528.0	359.6	-31.9	9.0	-25.7

(出所) IMF Commodity Market Monthly より筆者作成